

# 守りたい草原風景 草小積み



ミルクロード沿いの大観峰付近。山田中部牧野組合の森本幸光・ミサ子さん夫婦によって作られた草小積み。

## 草

小積みとは、刈った野草を乾燥させ、束にまとめて積み上げたもの。直径4呎、高さ2呎ほどの大きさです。秋になると行われる昔ながらの草の保存方法で、冬に畜舎で過ごす牛馬のエサや敷料、田畑の堆肥などに使われてきました。

## 昭

和40年代頃までは、晩秋の草原で多くの草小積みが見られました。近年は、牛馬の数が減って干し草が利用されなくなったことに加え、草刈り用機械の大型化や白くラッピングされた草ロールの普及、輸送手段の発達などによって農家が草小積みを作る必要性が低くなり、作れる人も減っています。草小積みについて知らない人も増えており、その役割や意味も徐々に忘れ去られています。

## 阿

蘇地域の草原を活用した農業は、世界農業遺産に認定されています。草小積みは、昔ながらの風景を創出し草原文化を学ぶためにも引き継ぐべきものであり、「伝えたい阿蘇の農業遺産資源」の一つとして位置づけられています。



城山展望所からやまなみハイウェイ沿いを九重方面に向かってすぐ右手に見える草小積み。三閑牧野組合の組合員8人の手によって設置。



根子岳の向かい側、箱石峠近くの草原にある町古閑牧野の草小積み。同牧野では、昔ながらの草原景観を維持し草小積みの技術を絶やさないため、ことしから後継者の育成を開始している。

写真は草小積みを作った市原啓吉組合長（右前）と妻の恵美子さん（右後）、後継者の古木誠さん（左後）、釜崎笙さん（中央）。



大型の機械で作られた草を貯蔵するロール。草小積みによって新しい阿蘇の風景となっている。



## 草

原を利用する知恵と技を継承し、草小積みのある風景を後世に伝えていくため、阿蘇地域世界農業遺産推進協会と阿蘇郡市の牧野組合が協力して平成28年に『草小積み再生プロジェクト』がスタートしました。市内では山田中部、三閑、町古閑の3つの牧野組合が草小積みを製作しています。野焼き前まで設置してあるので、昔ながらの草原風景をお楽しみください。

（問）草小積み再生プロジェクト事務局

阿蘇グリーンストック

☎ 32・3500